

技術開発全体計画

北海道森林管理局

課 題	低コストを目指したトドマツ等の低密度管理の検証及び技術の確立 (低密度植栽・早期強度除間伐)					開発期間	平成28年度～令和17年度 2016年度～2035年度 (20年間)
開発箇所	渡島署2110林班 網走西部署275林班	担当 部署	森林整備第一課 森林技術・支援センター	共同研究 機 関	森林総研 北海道支所	技術開発 目 標	1
現 状 と 問 題 点	<p>トドマツ人工林等は、今後10年で主伐期を迎え、それに伴う更新については、効率的で低コスト・省力化の取り組みが求められている。一方、新しい取り組みは民有林ではリスクが懸念される。</p> <p>植栽の段階から目標とする林分の成立本数により近い本数の植付を行うことにより、植付の段階から低コスト・省力化の効果が発現されることに着目し、低密度の植栽の実践と植栽木(トドマツ等)の密度管理や下刈り等施業のあり方についての知見を蓄え、施業の体系化につなげ、低コストを目指したトドマツ等の低密度管理の検証及び技術を確立させていく必要がある。</p>						
開発目的 (数値目標)	<p>低密度植栽を実践して、その後の植栽木の密度管理や下刈り等の施業のあり方についての具体的な手法の開発と効果および導入条件の検証を行い、低密度植栽の方法及び技術の確立を目指す。</p> <p>(※主要樹種の最適な植栽本数の設定 (例: トドマツ1,000～1,500本/ha))</p> <p>低密度植栽林分の保育期における取り扱いを検証するため、保育期を迎える人工林に強度の除間伐を行って低密度に仕立てた林分において、その保育施業のあり方についての具体的な手法の開発と効果及び導入条件の検証を行い、効率的な検証を目指す。</p> <p>(※強度除間伐の最適な本数の設定 例: 密度1,000本/ha程度)</p>						
開発方法	<p>低コストを目指した植栽密度の検証及び低密度植栽技術の確立を図る取組みとして、地況・林況に応じた植栽本数の確立のため、植栽試験地における活着生長調査等を道内の各森林管理(支)署等で行い疎植による初期状況を把握しデータ収集を行う。</p> <p>低密度植栽林分が一定期間成長した後の林分状況等を把握するため、既存のトドマツ人工林のうち、密度効果が出ていない20年生以下程度の林分について、強度の除間伐等を行い、その効果を検証する実証試験地を設定する。</p> <p>さらに、道内における低密度植栽試験地に関する事例収集・分析・取りまとめを森林整備第一課及び共同研究機関である森林総合研究所北海道支所と連携して行う。</p>						
年 度 別 計 画	平成28・29年度	平成30年度	令和元年度	令和2～17年度			
	<ul style="list-style-type: none"> ○試験地の設定 ○調査プロットの設定 ○従来からの低密度植栽地の結果検証 ○成長調査等 ○データ収集・分析 	<ul style="list-style-type: none"> ○従来からの低密度植栽地の結果検証 ○成長調査等 ○データ収集・分析 ○開発期間の延長 	<ul style="list-style-type: none"> ○従来からの低密度植栽地の結果検証 ○成長調査(網走西部署) ○データ収集・分析 ○開発期間の延長 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5・10・15年度 中間報告 ○中間報告年を調査年とし、従来からの低密度植栽地の結果検証(分析、取りまとめ) 令和17年度 完了報告 ○分析、取りまとめ 			